

コロナ渦にみる子どもたちへの影響について

姫路訪問看護リハビリステーションもものは 松浦 久美子

はじめに

障害者児のリハビリを含め訪問看護をする中で、児童の母親特に小学校までの母親は他との交流が少なく不安や心配が常に存在していた。

支援のために、障害者児支援のため相談支援事業所を開設し、多機能事業所として重症心身障害児や医療的ケア児の児童発達支援事業所を開設した。

2020年より新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、訪問看護や児童発達支援事業を継続するのみで解決できない課題も多くある。

コロナ渦での影響

「病院受診が心配」「外出自粛にて外部との交流がない」「レスパイト入院やショートステイが出来なくなった」「感染リスクのために障害サービスを使いにくい」「外出自粛で自宅にいるため介護負担が増えた」「介護者が感染した場合は介護の代理が見つからない、どうしたらよいかわからなかった」「感染予防の備蓄が心配」「他のきょうだいの学校行事にも参加できない」などの声があがった。

オンラインの活用

重症心身障害児の家族撮影会や写真展などイベント活動を行っていたが、コロナ渦で開催が困難となったが、朝礼やカンファレンス、研修は通常集合せずオンラインにてコロナ渦でも変わらず日常的に行っており、イベント活動もオンラインにて再開した。

2022年3月に訪問看護師が自宅へ訪問しサポートを行い、親子でオンライン味噌作りを開催した。参加した結果は、「自宅で子どもと一緒に出来たので楽しかった、味噌の出来上がりが楽しみ、またしてみたい」など好評だった。参加後も訪問時に味噌の途中経過を見せて喜んでもらっている。コロナ渦でも開催出来たことで楽しいを体験しモチベーションが上がったと思われる。

まとめ

今後は、コロナ渦で時代の流れも急速に変化していく中で、オンラインを活用した仕事や就職活動も広がってきており、在宅ワークの需要もある。

障害があっても障害がなくても就職活動は同じように行っていくべき姿であり、障害の方々も就職活動をオンラインで行い、選択肢が増えることで就職支援が出来るのではないかと思われる。

楽しいイベントも企画しオンラインも活用し社会貢献を行っていきたいと考えている。